

# 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	670人	
	人数	%
100	0	0
90～99	6	0.9
80～89	35	5.2
70～79	58	8.7
60～69	95	14.2
50～59	90	13.4
40～49	114	17.0
30～39	112	16.7
20～29	111	16.6
10～19	48	7.2
1～9	1	0.1
0	0	0

\*合格者の中から、無作為に抽出した670人(12.4%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	1	(1) 82.1	
		(2) 91.5	
		(3) 55.9	
		(4) 73.3	
		(5) 61.0	
		(6) 63.4	
	2	(7) 50.9	
		(1) 35.8	
		(2)	A 37.5
			B 34.6
		(3) 51.3	
		(4) 23.2	
		(5) 45.4	
		小計	52.3
		2	1
(2) 33.4			
(3) 90.1			
(4) 43.3			
(5) 17.7			
(6) 53.1			
2	(1)		A 23.7
			B 14.2
	(2) 28.9		
	(3) 46.8		
	(4) 69.6		
	(5) 50.0		
	(6) 51.1		
(7) 52.7			
小計	47.6		
3	1	(1) 27.2	
		(2) 23.2	
		(3) 54.0	
		(4) 40.4	
		(5) 88.1	
	2	(1) 72.8	
		(2) 86.3	
		(3) 27.8	
		(4)	企業 75.7
			理由 48.1
		(5) 83.2	
(6) 25.6			
小計	50.4		

## 2 分析結果の概要

分野別の正答率は地理的分野が高く、歴史的分野が低い。前年度との比較では、3分野ともに正答率が低下した。基礎的・基本的な知識・技能を用いて、グラフ等の諸資料を活用し、考察したことを表現する力をみる小問の正答率が低く、全体の正答率に影響する結果となった。正答率の高い小問から判断すると、基礎的・基本的な内容は身に付いていることが分かる。

そこで指導に当たっては、具体的な社会的事象に関心をもたせて、その意味と意義について考えさせる学習や、社会的事象と学習内容との関連を探る学習、課題を解決するための意見をまとめたり、発表したりする学習を日常の授業の中でも具体的に展開していくことが求められる。

大問別の正答率の経年比較は、次のとおりである。

大問	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
1 (主に地理的分野)	68.9	77.0	65.3	63.8	52.3
2 (主に歴史的分野)	64.1	62.5	68.1	58.7	47.6
3 (主に公民的分野)	66.6	72.2	66.1	54.2	50.4

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点		
				記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断	資料 活用
1	1	地理的分野	(1) 地図上で、イギリスの位置を示すことができる。	○			●		
			(2) 地図上で、赤道の位置を示すことができる。	○			●		●
			(3) 日付変更線の意味を理解している。	○			●	●	
			(4) 各国の国土面積と経済水域面積の資料からニュージーランドを判断することができる。	○				●	●
			(5) 地球温暖化に関する京都議定書を知っている。		○		●		
	(6) 日本と比較した資料から人口や気候帯、言語等を手掛かりにキューバを判断することができる。		○				●	●	
	(7) 日本の輸出入の変化を示す資料から日本の貿易構造の変化を読み取ることができる。		○				●	●	
	2		(1) 山形県の位置を理解している。	○			●		
			(2) 各地の農業の特色を判断することができる。	○	○		●	●	
			(3) 長野県の工業がさかんな理由を、長野県の自然や資源、歴史や交通面から判断することができる。	○				●	●
(4) 山形県で伝統産業が発達した要因を、雨温図から判断し、説明することができる。				○		●	●		
(5) 根拠となる資料を基に、宮崎県のよさについて具体的に述べるることができる。				○		●	●		
2	1	歴史的分野	(1) 紀元前776年は紀元前8世紀と書き表すことを知っている。			○	●		
			(2) 紀元前3世紀頃の日本の様子を理解している。	○			●		
			(3) 古墳時代の日本の様子を理解している。	○			●	●	
			(4) 欧米列強の中国進出を説明することができる。			○	●		●
			(5) 貿易構造の変化から日本の輸出超過の原因を第一次世界大戦と関連させて説明することができる。			○	●		●
			(6) サンフランシスコ平和条約の条文を基に、日本の独立に関する内容を判断することができる。	○			●	●	
	2		(1) 歴史の大きな流れを年表で理解している。		○		●		
			(2) 江戸時代の学問の中心である儒学を知っている。		○		●		
			(3) 室町時代の教育の特色を理解している。	○	○		●		
			(4) 摂関政治のころに栄えた国風文化を知っている。		○		●		
			(5) 江戸時代の庶民の文化を理解している。	○		○	●	●	
			(6) 明治維新の徴兵令と地租改正を判断することができる。	○			●		●
			(7) 戦時下の学生や子どもたちの状況を判断して、説明することができる。			○		●	●
3	1	公民的分野	(1) 民主主義の特徴を説明することができる。			○	●		
			(2) 具体的な事例を通して地方分権を理解している。		○		●		●
			(3) 宮崎県の財政の課題を理解している。	○			●	●	
			(4) 投票率から政治の問題を判断することができる。			○		●	●
			(5) 選挙の課題に対する取り組みを理解している。	○			●		
	2		(1) バブル崩壊後の日本経済の状況を理解している。	○			●		
			(2) 流通のしくみを理解している。		○		●		
			(3) 行政改革の内容を理解している。	○			●	●	
			(4) 郵便事業を例に、資料から公企業・私企業の区別を判断し、その特色を理解している。		○	○	●	●	
			(5) ユニセフの活動内容を知っている。	○			●		
			(6) 国際協調のための取り組みについて、自分の考えを述べるることができる。			○		●	●

#### 4 標準解答及び考察

1

##### 〈標準解答〉

1	(1)	②	(2)	㉔	(3)	A, B, D	(4)	エ	(5)	京都議定書	(6)	④	(7)	ウ
---	-----	---	-----	---	-----	---------	-----	---	-----	-------	-----	---	-----	---

##### 〈考察〉

「世界の島国」をテーマに、日本と同じ島国について調べるといふ場面設定の中で、世界の地域構成や世界と比べて見た日本などの基礎的・基本的な知識や理解力、資料に基づいた思考力・判断力を問う問題である。イギリスや赤道の位置、国土面積と経済水域に関する問いは正答率が高い。地球温暖化の問いは、我が国にも関係する基本的な内容であるが、61%の正答率にとどまっており、より高い正答率が求められるところである。また、日本の輸出入の変化を判断する問いは約51%の正答率にとどまり、資料の読み取りが不十分であったと思われる。

そこで指導に当たっては、社会的事象を日常的に授業の中に取り入れたり、各種の資料を活用する際に、その特徴や変化が著しい部分に着目したりしながら、理解させる必要がある。

##### 〈標準解答〉

2	(1)	エ	(2)	A	畜産	B	野菜	(3)	イ	
	(4)	(例) 冬に雪が多いため農作業ができず、家の中で工芸品をつくっていたから。								
	(5)	(例) 土地の価格の安さや、公園の面積の広さから、宮崎県は暮らしやすいことを紹介します。								

##### 〈考察〉

グループごとにテーマを決め、都道府県の調査活動を行うという場面設定の中で、日本の都道府県の地域的特色などの基礎的・基本的な知識や理解力、資料に基づいた思考力・判断力、資料活用能力・表現力を問う問題である。正答率が約23～51%と全般的に低い結果となった。山形県の位置に関する問いや資料から各地の農産物を判断する問い、雨温図から山形県における伝統産業の発達の要因を関連付けて説明する問いは、正答率が特に低い結果となった。

そこで指導に当たっては、白地図の活用等を通して、都道府県の構成と地域区分を地図上で大観させることが大切である。各種の資料を活用する際には、その特徴や変化が著しい部分を地理的事象と関連させながら、多面的・多角的な思考・判断ができるよう指導することが必要である。また、社会科の学習全体を通して、郷土宮崎に対する関心を高め、そのよさを伝えられるような表現力等を身に付けさせることも望まれる。

2

##### 〈標準解答〉

1	(1)	紀元前 8 世紀	(2)	イ	(3)	ア	
	(4)	(例) 欧米や日本などの列強が、中国を侵略しているようすをあらわしている。					
	(5)	(例) 第一次世界大戦の戦場となったヨーロッパが、中国などに輸出できなくなり、戦場にならなかった日本の輸出が急増したから。					
	(6)	イ					

##### 〈考察〉

「オリンピックの歴史」をテーマに、年表や資料を準備して発表するという場面設定の中で、古代の日本に関する基礎的・基本的な知識や理解力、近現代の日本に関する思考力・判断力、資料活用能力・表現力を問う問題である。古墳時代の日本の様子に関する問いの正答率が高いが、弥生時代の日本の様子に関する問いや、貿易構造の変化を表すグラフから日本の輸出超過の原因を第一次世界大戦と関連させて考察する問いは、特に低い正答率となった。

そこで指導に当たっては、古代の日本列島における人々の生活の変化を東アジアとのかかわりの中で正確に理解させる必要がある。また、第一次世界大戦前後の国際情勢のあらまし等、世界の動きを背景に我が国の歴史を大きくとらえる観点も大切である。授業の中では、我が国の歴史が大きな変化を示した内容を整理する際に、年表等を用いて世界の歴史の動きとのかかわりの中で理解させ、その関連を適切に説明できる能力を身に付けさせる必要がある。

〈標準解答〉

2	(1)	A	中世	B	近世	(2)	儒学(儒教)	(3)	記号○d	時代	室町 時代	
	(4)	国風 文化		(5)	ア	IV	イ	(例) 文字を習っていた(教育を受けていた)				
	(6)	ア	エ									
	(7)	①	(例) それまで徴兵を猶予されていた学生も動員され、戦場に送られた。									
		②	(例) 空襲をさけるために、父母のもとをはなれ、地方に集団で疎開した。									

〈考察〉

「日本の教育の歴史」をテーマに、年表や資料を準備して発表するという場面設定の中で、我が国の歴史の大きな流れや時代の特色、文化などについて、総合的に出題し、基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力を問う問題である。年表中に「中世」と「近世」を書き入れる問いでは、特に、「近世」の正答率は約14%で、社会科の全小問中、最も低く、「儒学」についても、正答率は約29%と低かった。

そこで指導に当たっては、我が国の各時代の特色について学習する上で、他の時代との相違点や共通点を明らかにし、歴史を大きくとらえることに重点を置きながら理解させることが大切である。その際、主題を設定し、まとめる等の作業的な活動を通して、時代の移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高める学習の展開が求められる。

③

〈標準解答〉

1	(1)	(例) 一人ひとりの意見を尊重し、話し合いによって、全体の意思を決定する。										
	(2)	地方分権	(3)	エ								
	(4)	(例) 選挙の棄権が多くなると、一部の人たちによって国の政治が進められ、全体の意見を反映した政治が行われなくなる。										
	(5)	ウ										

〈考察〉

新聞等の記事を基に調査活動を行うという場面設定の中で、選挙や地方財政などの課題に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。「民主主義」の政治上の特徴を説明する問いや「地方分権」の記述の正答率が20%台と低かった。また、選挙の棄権がもたらす課題についても正答率が低かった。

そこで指導に当たっては、公民的分野における基礎的・基本的な内容において、重要用語等の概念を明確に理解させる必要がある。そのためにも日常の社会生活と関連付けながら、具体的事例を通して取り扱うことや、自分の言葉で説明させる指導の展開が求められる。

〈標準解答〉

2	(1)	イ	(2)	流通	(3)	イ						
	(4)	私企業	理由	(例) 新しくなった企業は、株式会社になっているから。								
	(5)	ア										
	(6)	(例) もっと多くの国々が参加する会議(国際会議)を開いたり、組織(国際機関)をつくったりすることが必要である。										

〈考察〉

記念硬貨や切手などに興味をもち、調査活動を行うという場面設定の中で、日本経済や国際社会の課題に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。「南極大陸の土地や資源を平和的に利用するための国際社会の取り組み」に関して、自分の考えを述べる問いが約25%と低かった。誤答には、「お互いを尊重し合う」や「発展途上国を援助する」「温暖化を防止する」など、具体性や関連性のない内容を記述する傾向がみられた。

そこで指導に当たっては、与えられた資料の中から課題を見いだす学習や、課題の解決に向けた具体性のある内容を論述したり、意見を発表したりする学習の充実が必要である。可能な限り多くの単元でそのような学習を取り入れることにより、生徒同士がお互いの立場や考えを深め合い、公正な判断を下し得る能力が育つような授業を展開することが大切である。